

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	Licolala守口教室		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 16日		2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21人	(回答者数) 13人
○従業者評価実施期間	2026年 3月 23日		2026年 4月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃の職員間の情報共有が支援に活かされている。	些細な様子の変化や支援での成長などについての意見を朝礼等で共有することで、多角的な考え方や対応ができるようにしている。	日頃の情報を新しい職員が入ってきた時に円滑に伝えられるように情報を精査し、保管する。
2	園と事業所での情報共有を行っている。	双方の様子や活動の中で対応としてよかったことを聞いたり、伝えるようにすることで、対応の統一、児童にとって生活がより充実するようにしている。	保護者、園、事業所等の複数人による情報の共有が行える会議の検討
3	事業所内の設備が必要に応じて整備される。	トイレは以前、一般的なサイズだったが、児童向けのサイズになったことで安心して使用することができるようになった。	快適に過ごせるように、随時意見交換などを行うことで快適な支援環境を目指す。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所との連携	他事業所との併用をしている際に、その事業所での対応や課題を聞くことができていない。	対応の統一や連携が取れるように、他事業所を使用されている場合は様子などについて確認の連絡を入れる。
2	児童の調子などにより、支援の方法がその時々感覚によって賄われている場合の支援方法決定基準の言語化と、共有・保管方法が確立されていない。	職員ごとの経験などによって判断されている部分は共有されても、考え方の違いがある時や新しい職員にはすんなりと理解することが難しい。 また、数カ月後などに評価する際に統一された評価基準がないことにより、成長の評価が主な職員の感覚になってしまうことがある。	評価シートを作成するなどして、一定の基準から年単位・月単位での成長の評価ができるようにする。
3	支援や発達段階に応じた道具の種類や数の充実	活動に合わせて購入された道具は、発達段階的に見たら一部であることが多く、支援する際に数や種類が足りないことがある。	改めて備品の点検や必要数の検討を行い購入する。 また、職員の新たな道具への知見を広げるために様々な道具を使用する。